

医療行動科学6

年次	学期	学則科目責任者
3年次	後学期	伊藤 孝訓 (歯科総合診療学)

学習目標 (GIO)	医療は患者と医療者が協働する時代といわれ、医師中心、患者中心を越えた第3の枠組みとして“relationship-centered care”という概念が提示されている。患者の視点からみた病院の診療システム、来院した初診患者の心情、医療スタッフの態度等、患者-医療者関係についてより深く考え、自らの行動指針を整理・決定することが大切である。また、メタ認知的な視点、つまり自分が第三者となり、自分と相手を観察することができれば、自分をモニタリングし、コントロールすることで効果的な活動を行うことができる。 本講義において付属病院で「患者付添実習」を通して実際に患者や医療者と接触することで、前述した考えやコミュニケーションの難しさを理解し、さらに臨床歯科医学へ興味と勉学への意欲を高める。
担当教員	伊藤 孝訓、河相 安彦、多田 充裕、内田 貴之、青木 伸一郎、遠藤 弘康、大沢 聖子、岡本 康裕
教科書	講義内容に関連した資料を配布する
参考図書	「人間学入門」 日本医学教育学会 南山堂 「患者と医師のコミュニケーション」 石川ひろの、武田裕子 訳 篠原出版新社 その他随時紹介する。
実習器材	SGD はノートパソコンを使用するので、班ごとに用意すること
評価方法 (EV)	講義：授業時間内に行う平常試験 (60%)、制作物・体験学習レポート (30%)、受講態度 (10%) をもって総合評価 (最終評価) する。 平常試験の結果に応じて、補講または再試験等の措置を講じることがある。 受講態度は出席することが前提として与えられ、講義・演習参加への積極性を評価対象とする。 授業時間数の1/5 以上を欠席した場合、成績評価は0～60点とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	附属病院の患者付添実習を通して医療について深く考えてみましょう。実習はH27.1.7に実施しますので、体調管理等に気を付けて下さい。 E-mail (shindan.md.ml @ nihon-u.ac.jp) による質問を受け付ける。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/09/28 (月) 1時限 09:00～10:30	ガイダンス 対人関係能力	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、3年次で患者付添実習を体験するので、患者の思いを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 授業の進め方、評価について説明できる。 2. 医療者の患者に接する適切な態度を説明できる。 3. 病院における患者の心情について説明できる。 4. 患者満足度に関わる要因について説明できる。 5. コミュニケーションの役割を説明できる。 6. メタコミュニケーションを説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 歯科医療の社会的特性について説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-3) 患者中心のチーム医療 *①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓
2015/10/05 (月) 1時限 09:00～10:30	対人関係の基礎知識 (1) ①第1印象 ②ニーズ ③動機付け ④同情と共感 ⑤指導と援助 ⑥価値観 ⑦セルフエステーム	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者との有効な対人関係能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第1印象の大切さを説明できる。 2. 患者のニーズを説明できる。 3. 動機付けの難しさを説明できる。 4. 同情と共感の違いを説明できる。 5. 指導と援助の違いを説明できる。 6. 価値観の影響を説明できる。 7. セルフエステームを説明できる。</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/05 (月) 1時限 09:00～10:30	対人関係の基礎知識(1) ①第1印象 ②ニーズ ③動機付け ④同情と共感 ⑤指導と援助 ⑥価値観 ⑦セルフエステーム	<p>【準備学習項目】 コミュニケーションを説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 パソコン持参すること</p> <p>【学習方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/10/19 (月) 1時限 09:00～10:30	対人関係の基礎知識(2)発表 ①第1印象 ②ニーズ ③動機付け ④同情と共感 ⑤指導と援助 ⑥価値観 ⑦セルフエステーム	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者との有効な対人関係能力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 第一印象が他人に与える影響を説明できる。 2. ニーズの持つ意味を説明できる。 3. 動機付けの難しさを説明できる。 4. 同情と共感の違いを説明できる。 5. 指導と援助の違いを説明できる。 6. 価値観の違いを説明できる。 7. セルフエステームを説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 患者に対する適切な態度を説明できる。</p> <p>【学習方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/10/26 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育(1) 「患者の解釈モデル、受診の動機、受療行動」を深く考える。	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者の行動を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 患者と医療者の立ち位置を説明できる。 2. 望ましい対人関係能力を概説できる。 3. 歯科患者の受療行動を説明できる。 4. 歯科患者の受診の動機を説明できる。 5. 病気解釈モデルを説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 患者に対する適切な態度を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 パソコン持参すること</p> <p>【学習方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 g ニーズとディマンド</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/26 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (1) 「患者の解釈モデル、 受診の動機、 受療行動」を深く 考える。	患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/11/02 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (2) 発表 「患者の解釈モデル、 受診の動機、 受療行動」を深く 考える。	【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者の行動を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 患者の望む歯科学生の姿を説明できる。 2. 挨拶ができる。 3. 正しい言葉遣いができる。 4. 患者の抱く安心感への配慮ができる。 5. 患者のプライバシーへの配慮ができる。 6. 患者とのコミュニケーションができる。 【準備学習項目】 患者に対する適切な態度を説明できる 【学習方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【 患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/11/09 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (3) 付添想定ロールプレ イ ーシナリオ作成ー	【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、有効な対人行動能力を理解修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 患者の望む歯科学生の姿を説明できる。 2. 挨拶ができる。 3. 正しい言葉遣いができる。 4. 患者の抱く安心感への配慮ができる。 5. 患者のプライバシーへの配慮ができる。 6. 患者とのコミュニケーションができる。 【準備学習項目】 患者に対する適切な態度を説明できる。 【学習場所・媒体等】 パソコン持参すること。 ロールプレイ 【学習方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【 患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/11/16 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (4) 付添想定ロールプレ イ ーロールプレイ発表ー	【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、有効な対人行動能力を理解修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 患者の望む歯科学生の姿を説明できる。 2. 挨拶ができる。 3. 正しい言葉遣いができる。 4. 患者の抱く安心感への配慮ができる。 5. 患者のプライバシーへの配慮ができる。 6. 患者とのコミュニケーションができる。 【準備学習項目】 患者に対する適切な態度を説明できる。 【学習場所・媒体等】	伊藤 孝訓 内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/11/16 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (4) 付添想定ロールプレ イ ーロールプレイ発 表ー	ロールプレイ、発表 【学習方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/11/30 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験 1	【学習方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室	伊藤 孝訓 内田 貴之
2015/12/07 (月) 1時限 09:00～10:30	本学付属病院を知 る	【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、付属病院におけるソフト・ハードウェアに 関する知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 付属病院の診療システムを説明できる。 2. 来院患者の動態を説明できる。 3. 歯科医療に関わる専門職を説明できる。 4. 付属病院の科目配置や構造を説明できる。 【準備学習項目】 本学付属病院のHPを読み概説できる。 【学習方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	内田 貴之
2015/12/14 (月) 1時限 09:00～10:30	付添実習プレ教育 (5) 討議・発表 「なぜ、医療者は 白衣を着るの？」	【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、医療者が着る白衣の意味に関する知識を修 得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科医療に関わる専門職を説明できる。 2. 医療者はなぜ白衣を着るのか、その意味を説明できる。 3. 歯科医療における患者と医療者の役割を説明できる。 4. シンボルを心理学的に説明できる。 【準備学習項目】 医療者の責務をを説明できる。 【学習場所・媒体等】 パソコン持参すること 【学習方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	内田 貴之 伊藤 孝訓

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/12/21 (月) 1時限 09:00~10:30	休講1 振替日：平成28年1月6日(水) 9:00-16:10 患者付添実習 振り返り(1)	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者付添実習を通して“patient-centered medicine”の考えを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 医療系大学生として具有すべきマナーや態度を実践できる。 2. 口腔疾患に悩む患者の気持ちを理解できる。 3. よき歯科医となるべき勉強する動機付けに役立てることができる。 4. 医療現場におけるコミュニケーション力の重要性を理解できる。 5. 患者と共に大学病院の外来診療システムをみて、受診上の利点や問題点を知ることができる。 6. KJ法を用いて、問題点をまとめることができる。</p> <p>【準備学習項目】 1. 付属病院の配置図を説明できる。 2. 患者の流れを説明できる。 3. 歯科医療に関わる専門職を説明できる。 4. 適切な患者対応について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 付添実習：付属病院 SGD (KJ法によるまとめ)：第2実習室</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 MDホール、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 河相 安彦 多田 充裕 内田 貴之 青木 伸一郎 遠藤 弘康 大沢 聖子 岡本 康裕
2016/01/18 (月) 1時限 09:00~10:30	患者付添実習の振り返り(2)	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者付添実習で体験した内容について振り返り、対人関係能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. relationship-centered careについて説明できる。 2. 患者の個別性や価値観について説明できる。 3. 体験から得た知識を自分の行動に生かすことができる。</p> <p>【準備学習項目】 病院実習で得た知識を説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 パソコン持参すること</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法 (言語的と非言語的) を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之
2016/01/25 (月) 1時限 09:00~10:30	患者付添実習の振り返り(3)発表	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者付添実習で体験した内容について振り返り、対人関係能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 患者付添実習について説明できる。 2. relationship-centered careについて説明できる。 3. 患者の個別性や価値観について説明できる。 4. 体験から得た知識を自分の行動に生かすことができる。</p> <p>【準備学習項目】 病院実習で得た知識を説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/01/25 (月) 1時限 09:00～10:30	患者付添実習の振り返り(3)発表	<p>【場所(教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之
2016/01/29 (金) 1時限 09:00～10:30	休講2 振替日：平成28年1月6日(水) 9:00-16:10 患者付添実習 振り返り(1)	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者付添実習を通して“patient-centered medicine”の考えを修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 医療系大学生として具有すべきマナーや態度を実践できる。 2. 口腔疾患に悩む患者の気持ちを理解できる。 3. よき歯科医となるべき勉強する動機付けに役立てることができる。 4. 医療現場におけるコミュニケーション力の重要性を理解できる。 5. 患者と共に大学病院の外来診療システムをみて、受診上の利点や問題点を知ることができる。 6. KJ法を用いて、問題点をまとめることができる。</p> <p>【準備学習項目】 1. 付属病院の配置図を説明できる。 2. 患者の流れを説明できる。 3. 歯科医療に関わる専門職を説明できる。 4. 適切な患者対応について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 付添実習：付属病院 SGD(KJ法によるまとめ)：第2実習室</p> <p>【学習方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 MDホール、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	伊藤 孝訓 河相 安彦 多田 充裕 内田 貴之 青木 伸一郎 遠藤 弘康 大沢 聖子 岡本 康裕
2016/02/05 (金) 1時限 09:00～10:30	平常試験2	<p>【学習方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之
2016/02/08 (月) 1時限 09:00～10:30	本講義のの振り返り	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、患者付添実習を通して“patient-centered medicine”の考えを修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 医療コミュニケーションの患者背景を説明できる。 2. 医療現場におけるコミュニケーション力の重要性を理解できる。 3. 心理に基づく患者-医療者行動を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 医療行動科学5とこれまでの医療行動科学6の講義を説明できる。</p> <p>【学習方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項</p>	伊藤 孝訓 内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/02/08 (月) 1時限 09:00~10:30	本講義のの振り返り	A-3 歯科医師の責務 *①患者との信頼関係を築くことができる。 A-4 インフォームドコンセント *①インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。 A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	伊藤 孝訓 内田 貴之